

● 沿革

- 1925 (大正14年) 天理外国語学校(男女共学)創設
天理図書館
(現附属天理図書館の前身)を設置
- 1927 (昭和2年) 専門学校令による天理外国語学校設立
- 1930 (昭和5年) 海外事情参考品室
(現附属天理参考館の前身)を設置
現在の天理図書館竣工
- 1949 (昭和24年) 天理大学開学
文学部を設置
- 1952 (昭和27年) 外国語学部を開設
- 1955 (昭和30年) 体育学部を開設
- 1992 (平成4年) 人間学部を開設
外国語学部を国際文化学部に変更
- 2004 (平成16年) 大学院を開設
臨床人間学研究科臨床心理学専攻を設置
- 2010 (平成22年) 国際文化学部を国際学部に変更
- 2015 (平成27年) 大学院 体育学研究科体育学専攻を設置
- 2017 (平成29年) 大学院 宗教文化研究科
宗教文化研究専攻を設置
- 2023 (令和5年) 天理医療大学と統合

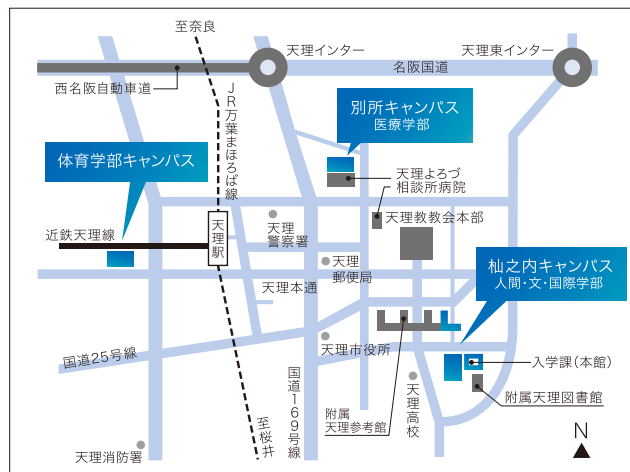
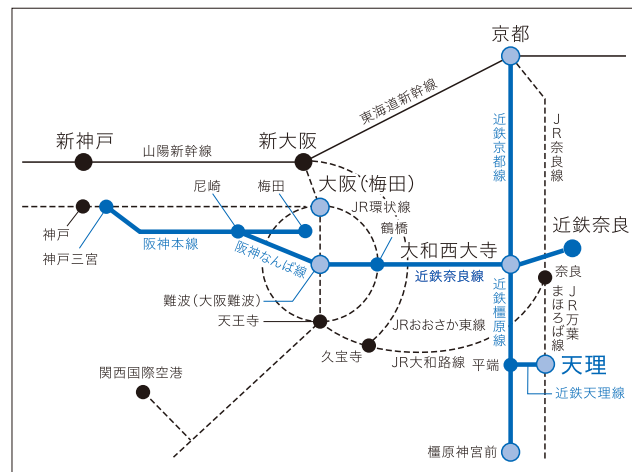
● 「天理の体育」の歴史

- 1950 戦前まで日本の武道教育を支えてきた武道専門学校が、終戦後に解散。
その講師陣を天理短期大学が受け入れる。
- 1952 天理短期大学生の大石康子がヘルシンキオリンピック水泳競技に出場。
練習の場となった「天理プール」には全国から代表選手が練習に訪れた。
- 1964 本学創設者中山正善が柔道の正式競技化に尽力した東京オリンピックが開催。
(嘉納治五郎との関係から、本学柔道場には氏の直筆額が掲げられている)
- 2005 総合体育館が誕生
- 2015 体育学部設置60年を迎える

● 「天理の体育」受賞・活躍の歴史

- 1979年、藤猪省太、世界選手権4回連続優勝 ■1984年、細川伸二(本学名誉教授)、ロサンゼルスオリンピック・60kg級金メダル ■1985年、正木嘉美(現・本学教授)、世界選手権大会・無差別級優勝 ■2000年、篠原信一、シドニーオリンピック・100kg超級銀メダル ■2004年、野村忠宏、オリンピック三連覇達成 ■2007年、男子ホッケー部、全日本選手権大会20回目の優勝 ■2010年、穴井隆将、世界柔道選手権大会・100kg級優勝 ■2021年、ラグビー部、全国大会で初優勝 ■2021年、大野将平(大学院体育学研究科卒業)、オリンピック二連覇達成 ■2022年、創作ダンス部、全国大会で文部科学大臣賞(第1位)初受賞

- アクセスマップ 大阪、京都から約1時間。神戸から約1時間40分。奈良から約15分。関西圏の各地から、通学可能です。



大阪から 所要時間：約1時間

- 大阪難波
近鉄奈良線 近鉄奈良行き
(快速急行・急行に乗車 約35分)
- 大和西大寺
近鉄橿原線 天理行き
(急行に乗車 約20分)
- 天理
※「大和西大寺」駅より、橿原神宮前行きに
乗車の際は、「平端」駅下車、
天理行きに乗り換え。

京都から 所要時間：約1時間

- 京都
近鉄京都線 天理行き(急行に乗車 約60分)
- 天理
「京都」駅より、橿原神宮前行きに乗車の場合は、
「平端」駅下車、天理行きに乗り換え。

神戸から 所要時間：約1時間40分

- 神戸三宮
阪神本線 近鉄奈良行き
(快速急行に乗車 約80分)
- 大和西大寺
近鉄橿原線 天理行き
(急行に乗車 約20分)
- 天理
※「大和西大寺」駅より、橿原神宮前行きに
乗車の際は、「平端」駅下車、
天理行きに乗り換え。

■ 天理駅から 杉之内キャンパスへは、バスで約8分、徒歩で約20分。体育学部キャンパスへは、徒歩約5分。別所キャンパスへは、徒歩約15分。

■ 自動車 西名阪自動車道「天理インター」から約15分。名阪国道「天理東インター」から約5分。

天理大学
大学院TENRI UNIVERSITY
GRADUATE
SCHOOL

The Graduate School of Physical Education

体育学研究科

体育学専攻(修士課程)

A領域(武道・スポーツ文化)

B領域(保健・スポーツ教育)

C領域(健康・スポーツ科学)

私たち天理大学は建学の精神に基づく「他者への献身」をめざし、長年研鑽に努めてきました。
「体育学」もそのための大切な研究領域です。それはスポーツの研究にとどまりません。
食を通じ健やかな身体を育むこと、ダンスや演劇により心を動かすこと、武道で己を磨くこと…。
幅広く人と社会にアプローチする力、それが「体育学」です。スポーツの国際化・多様化の一方で、
心身の問題も多発する現代。高度な「体育学」で課題を解決し、人と社会を健やかに育みたい。
共に挑む仲間を、お待ちしております。



皆さんと共に育てたい、これからの人・社会

1 保健体育科教員 として

身体を動かす喜び、チームワークの楽しさや、健康の大切さを伝える教育現場を作る
子どもの体力低下、コミュニケーション能力の低下や心の問題などを解決する術として、身体と心を育む「体育学」や「保健学」の役割は重要です。指導者としてはもちろん、現場づくりのリーダーが求められています。

2 競技スポーツ指導者 として

アスリートの力を最大限引き出し、人々を、世界を熱狂させる
本学卒業生のシンクロナイズドスイミングコーチ、井村雅代氏のように、日本はもちろん世界各国でコーチを務め、若者の才能を最大限に引き出します。そこから生まれる感動は、人の心まで動かします。

3 スポーツリーダー として

地域や日本、世界でスポーツの魅力を普及させる環境・イベントを創る
地方自治体における健康促進の環境づくりや、NPO法人や民間企業でスポーツクラブやイベントの運営に携わり、あらゆる世代にスポーツを楽しんでもらうことで、生きがいや健康を促進します。

4 健康づくりサポーター として

栄養士や福祉スタッフ、トレーナーとして人の健康を支える
栄養学やスポーツ医学、トレーニング科学などを活用し、ライフステージに応じた健康づくりをサポート。高齢化社会において、人々が健やかにイキイキと過ごす生涯をスペシャリストとして支えます。

5 地域スポーツ指導者 として

スポーツ指導を通じて人々の生きがい、さらには地域活性化を生み出す
スポーツを日々楽しむためには、一人ひとりの地域に根ざした運動環境の整備が重要です。身近なスポーツ環境を指導者として支え「チームをまとめ動かす」、そんな人や地域の活力を生み出すリーダーが不可欠です。

知識だけでなく マネジメント能力育成に注力する 「指導者・リーダー育成」教育

指導者・リーダーには、単に物事を伝えるだけでなく、一人ひとりを理解した上で、指導しつつ、育てていくことや集団をまとめることなど、多岐にわたる人間力、すなわちマネジメント能力が求められます。知識習得だけでは得られない総合的な力を、多様なアプローチで培います。



教員育成、武道人育成、 アスリート養成など歴史ある 「天理の体育」を体系化

柔道の五輪金メダリストをはじめ、水泳、ラグビー、野球など多くの選手を育ててきた伝統、関西私立大学初の体育教員養成校として教員を輩出してきた歴史…こうした経験知を教育に活かします。

中学校・高等学校教諭の 「専修免許状」が取得可能

専修免許状は、大学院という高度な教育の場で課題解決力を磨いた証です。その経験と理論に対する信頼は非常に高く、既に多くの教育現場から期待の声を頂いています。

※所定の単位修得が必要です。
一種免許状の取得が前提となります。

「長期履修制度」による 「3年制」という選択肢

社会人の方で、事前審査で認定されれば、「2年間の学費で3年間」履修できる長期履修制度も用意されています。

天理大学の「体育学」

3つの専門分野を幅広く学び、自らの専門を深めます。

高度な指導者は、スポーツの魅力や方法を正しく伝える教育の力と、最新の知見に基づいて判断を下すことのできる科学と保健の力を有するべきだと考えます。そのため、私たちは各分野の専門家を一同に集め、理論や経験を伝えます。

A領域
(武道・スポーツ文化)

「武道」「スポーツ文化」を人文・社会系学問領域から探究

武道およびスポーツにかかわる文化事象を、人文・社会系学問領域から探究します。本領域では、競技だけでなく、伝統文化として体系づけられてきた武道を、その歴史と思想の理解から探究し、多面的に学びます。また、スポーツを広義にとらえ、民族遊戯や伝統スポーツも扱いながら通文化的・共時的に考察するための研究能力を培います。スポーツマネジメントについても、その専門的知識と実践力を伴った人材の育成をめざします。研究のテーマには、特定の時代・地域の人々における武術の継承に関するものや極限を求める新規のエクストリームスポーツについて扱ったものがあります。

研究指導および「特論」担当教員

スポーツ人類学 スポーツ比較文化特論 田里 千代	武道論 武道指導特論 徳田 眞三	剣道史 武道学特論 軽米 克尊
スポーツマネジメント スポーツマネジメント特論 稲葉 慎太郎	スポーツ運動学 スポーツ運動学特論(予定) 松山 尚道	



B領域
(保健・スポーツ教育)

「保健教育」「スポーツ教育」にかかわる問いを探究

保健教育およびスポーツ教育にかかわる問いを課題化した上で、体系づけられた学問上の知識と照らしながら探究し、実証的に解明します。また、研究テーマについて他者と議論し、学術として共有することを学びます。本研究科には現職教員や教員志望者が多く在席し、主に教科教育の立場から修士論文を執筆しています。そのテーマには、教師行動、学習者認識、教科内容・教材解釈、授業づくりなどがあります。このほか日本の合科目型(保健/体育)の再考といった教員養成の課題、また、社会や個人におけるスポーツやダンスのノンバーバル・コミュニケーションとしての価値なども研究テーマとしています。

研究指導および「特論」担当教員

学校保健・衛生学 学校保健学特論 高橋 裕子	保健体育科教育 体育科教育特論 白石 晃	身体表現学・ダンス 身体表現学特論 塚本 順子
-------------------------------------	-----------------------------------	--------------------------------------



C領域
(健康・スポーツ科学)

競技者に寄り添い、支える指導に役立つ方法を探る

競技者の指導に役立つ、スポーツ栄養学、体力科学、トレーニング科学、スポーツ医学に関する科学的なエビデンスを収集する方法や、実証実験の方法、さらには指導現場に役立てる方法について実践的に学ぶことを目標としています。教員やスポーツ競技者の指導に携わる人、これから携わろうとしている人に焦点を当てたカリキュラムを構成しています。研究テーマは多岐に渡りますが、競技種目におけるパフォーマンスの向上を目的としたものが多く見られます。学会等での研究成果発表による学術的なキャリアアップを支援しており、実際に学会賞等を授賞した院生が複数名出ています。

研究指導および「特論」担当教員

体力科学 体力科学特論 中谷 敏昭	スポーツ医学 スポーツ医学特論 神谷 宣広	トレーニング科学 トレーニング科学特論 寺田 和史
スポーツ栄養学 スポーツ栄養学特論 岩山 海渡	スポーツバイオメカニクス スポーツバイオメカニクス特論 山本 大輔	スポーツビジュアルサイエンス コーチング科学特論 梅崎 さゆり



共通科目

講義等担当教員

スポーツ心理学 体育科指導実践演習 西田 円	保健体育科教育 体育科指導特論 小畑 治	武道(柔道) 体育・スポーツ学特論 穴井 隆将
保健体育科教育 体育科教育特論 北澤 太野	野外教育学 生涯スポーツ特論 蓬田 高正	

■カリキュラム表

科目 区分	領域	授業科目の名称	配当 年次	単位数		備 考
				必修	選択	
共通科目		体育・スポーツ学特論	1	2	—	
		体育学特別研究I	1	2	—	
		体育学特別研究II	2	2	—	
		体育学特別研究III	2	2	—	
		生涯スポーツ特論	1・2	—	2	
		スポーツバイオメカニクス特論	1・2	—	2	
		コーチング科学特論	1・2	—	2	
		保健体育科指導特別演習	1・2	—	2	
		体育科指導実践演習	1・2	—	2	
		インターンシップ	1・2	—	4	
		海外インターンシップ	1・2	—	2	
専門科目	A領域 (武道・スポーツ文化)	武道・スポーツ文化研究法	1	—	2	A領域選択の場合は、 研究法を含む 2科目以上取得のこと
		武道学特論	1・2	—	2	
		スポーツ比較文化特論	1・2	—	2	
		武道指導特論	1・2	—	2	
	B領域 (保健・スポーツ教育)	保健・スポーツ教育研究法	1	—	2	B領域選択の場合は、 研究法を含む 2科目以上修得のこと
		体育科指導特論	1・2	—	2	
		学校保健学特論	1・2	—	2	
		体育科教育特論	1・2	—	2	
	C領域 (健康・スポーツ科学)	健康・スポーツ科学研究法	1	—	2	C領域選択の場合は、 研究法を含む 2科目以上修得のこと
		体力科学特論	1・2	—	2	
		スポーツ医学特論	1・2	—	2	
		トレーニング科学特論	1・2	—	2	
演習科目	A領域 (武道・スポーツ文化)	武道学演習	1・2	—	2	A領域選択の場合は、 1科目以上修得のこと
		スポーツ比較文化演習	1・2	—	2	
		武道指導演習	1・2	—	2	
	B領域 (保健・スポーツ教育)	スポーツマネジメント演習	1・2	—	2	B領域選択の場合は、 1科目以上修得のこと
		体育科指導演習	1・2	—	2	
		学校保健学演習	1・2	—	2	
	C領域 (健康・スポーツ科学)	体育科教育演習	1・2	—	2	C領域選択の場合は、 1科目以上修得のこと
		身体表現学演習	1・2	—	2	
		体力科学演習	1・2	—	2	
		スポーツ医学演習	1・2	—	2	
		トレーニング科学演習	1・2	—	2	
		スポーツ栄養学演習	1・2	—	2	

選択した領域の専門科目・演習科目			6以上
共通科目・専門科目・演習科目			16以上
修了に必要な単位数		8	22以上

社会とのかかわりのなかで、めざす未来の姿を明確にします。

理論から実践へ、そして現場の課題解決へ。

着実に成長していく

学びのポイント。

3領域を学び、
確かな基盤をつくる。

1年次春学期の「体育・スポーツ学特論」を学び、全体像を理解します。さらに3領域「武道・スポーツ文化研究法」「保健・スポーツ教育研究法」「健康・スポーツ科学研究法」を学び、学習基盤を作ります。

豊富な専門科目を
組み合わせ、
自らの強みを培う。

特論ならびに演習では、体育科教育、身体表現学、武道学、体力科学、スポーツ栄養学、スポーツ医学など、多岐にわたる専門を自由に学べます。

理論学習と実践で、
人間力やマネジメント
能力まで磨く。

本研究科では、研究活動はもちろん、その成果を試し、行動につなげるための実践機会を数多く用意しています。それにより人間力やマネジメント能力を磨き、高めます。

修士論文で、学んだ
知識と幅広い研究を、
課題解決力へと高める。

成果物を後世に残す学術論文の価値と意義を認識し、7つの要件を満たす修士論文を作成します。知識や研究力を総動員する「課題解決」の力を確立します。

ピックアップ授業

スポーツバイオメカニクス特論

スポーツバイオメカニクスの基礎となる力学・解剖学・生理学などの知識だけでなく、日常やスポーツ場面でみられる幅広い動きについて、動作学・動力学的な視点からその特徴について学んでいきます。

体育科指導特論

児童生徒にとって「良い体育授業」とはどのようなものでしょうか。授業の構造や教師行動、教材の工夫の視点から、その条件について明らかにしていきます。

武道学特論

武道学研究の入門編。戦技であった「武術」が、わざの稽古を通して身心を鍛える「武芸」、さらには近代以降、教育としての「武道」に変容した歴史を概観しつつ、特に重要な点については詳しく学びます。

スポーツ医学特論・演習

アスリートやスポーツ指導者に必須のスポーツ外傷や骨格の形成について、国内・国外の論文を引用し基礎から学びます。特に女性アスリートの怪我防止には力を入れています。

学校保健学特論

学校保健の歴史は、明治期に遡ります。残存する地域史料・学校史料の分析を通して、現代の学校保健を考える講義・演習を行っています。

トレーニング科学特論

トレーニングの手段や効果の評価法、効果機序、生じる有害事象と対応等について論じます。また、トレーニング実施・介入に際しての基礎理論や応用等について考えます。

成長フロー

	基礎と応用力を習得		課題解決の実践へ		想定される進路
	1年次		2年次 春学期	2年次 秋学期	
A領域 (武道・スポーツ文化)	● 武道・スポーツ文化研究法(春学期) ● 武道学特論(春学期)、演習(秋学期) ● スポーツ比較文化特論(春学期)、演習(秋学期) ● 武道指導特論(春学期)、演習(秋学期) ● スポーツマネジメント特論(春学期)、演習(秋学期)		人間力やマネジメント能力を磨き、 知識と研究を課題解決力へと高める 研究活動はもちろん、その成果を試し行動につなげるために数多くの実践機会を用意しています。それにより人間力やマネジメント能力を磨き、高めます。また修士論文では、学術論文の価値と意義を認識し、7つの要件を身につけます。知識や研究力を総動員する「課題解決」の力を確立していきます。  ● インターンシップ ● 海外インターンシップ ● 体育学特別研究II  ● 中間審査会 ● 体育学特別研究III		● 保健体育科教員 ● 競技スポーツ指導者 ● スポーツリーダー ● 健康づくりサポーター ● 地域スポーツ指導者 ● 一般企業 など
B領域 (保健・スポーツ教育)	● 保健・スポーツ教育研究法(春学期) ● 体育科指導特論(春学期)、演習(秋学期) ● 学校保健学特論(春学期)、演習(秋学期) ● 体育科教育特論(秋学期)、演習(秋学期) ● 身体表現学特論(春学期)、演習(秋学期)				修士論文の7つの要件 学位論文としては、以下の要件を満たすことが必要となります。 - 適切な研究テーマを設定していること。 - 研究テーマに関する基礎的文献や先行研究を広範にわたって検討していること。 - 研究テーマに対する目的が明らかであり、研究デザインや研究方法が適切であること。 - 研究テーマや研究知見にオリジナリティ(独自性)があること。 - 論文に使用する資料や実験データに妥当性があること。 - 論文の著述内容・著述順序・考察内容に合理性が認められること。 - 論文の限界把握や反省が適切になされ、以後の研究の発展性が認められること。
C領域 (健康・スポーツ科学)	● 健康・スポーツ科学研究法(春学期) ● 体力科学特論(春学期)、演習(秋学期) ● スポーツ医学特論(春学期)、演習(秋学期) ● トレーニング科学特論(春学期)、演習(秋学期) ● スポーツ栄養学特論(春学期)、演習(秋学期)				
共通科目	● 体育・スポーツ学特論(春学期) ● 生涯スポーツ特論(春学期) ● スポーツバイオメカニクス特論(春学期) ● コーチング科学特論(春学期) ● インターンシップ ● 海外インターンシップ				

各科目の配当年次は、カリキュラム表を参照してください。